

## 5.3 根号・絶対値記号が現れる不等式

(定理 5.1.7) 任意の実数  $a, b$  について,  $a^2 \geq b^2$  かつ  $a \geq 0$  ならば,  $a \geq b$ .

例 3 と  $\sqrt{7}$  との大小関係を調べる.

(定理 5.1.7) 任意の実数  $a, b$  について,  $a^2 \geq b^2$  かつ  $a \geq 0$  ならば,  $a \geq b$ .

例 3 と  $\sqrt{7}$  との大小関係を調べる.  $3^2 = 9$ ,  $\sqrt{7}^2 = 7$ .  $\sqrt{7}^2 < 3^2$  なので, 定理 5.1.7により,  $\sqrt{7} < 3$ . 終

問5.3.1  $7$  と  $4\sqrt{3}$  との大小関係を調べよ.

$$7^2 = \quad . \quad (4\sqrt{3})^2 = \quad . \quad ( \quad )^2 < \quad ^2 \quad \text{なので,} \quad < \quad .$$

問5.3.1  $7$  と  $4\sqrt{3}$  との大小関係を調べよ.

$$7^2 = 49 . \quad (4\sqrt{3})^2 = 16 \cdot 3 = 48 . \quad (4\sqrt{3})^2 < 7^2 \quad \text{なので,} \quad 4\sqrt{3} < 7 . \quad \boxed{\text{終}}$$

問5.3.2  $\frac{13}{3}$  と  $3\sqrt{2}$  との大小関係を調べよ.

$$\left(\frac{13}{3}\right)^2 = \quad , \quad (3\sqrt{2})^2 = \quad . \quad ( \quad )^2 < ( \quad )^2 \text{ なので,}$$
$$< \quad .$$

**問5.3.2**  $\frac{13}{3}$  と  $3\sqrt{2}$  との大小関係を調べよ.

$$\left(\frac{13}{3}\right)^2 = \frac{169}{9} \quad , \quad (3\sqrt{2})^2 = 18 = \frac{162}{9} \quad . \quad (3\sqrt{2})^2 < \left(\frac{13}{3}\right)^2 \quad \text{なので,}$$
$$3\sqrt{2} < \frac{13}{3} \quad .$$

終

**定理 5.3.1** 0 以上の任意の実数  $a, b$  について,

$$a < b \iff \sqrt{a} < \sqrt{b} ,$$

$$a \leq b \iff \sqrt{a} \leq \sqrt{b} .$$

**証明** 例として “  $a < b \iff \sqrt{a} < \sqrt{b}$  ” を証明する. 定理 1.6.2 により,  $\sqrt{a} \geq 0$ ,  $\sqrt{b} \geq 0$ . また, 定理 1.6.3 により,  $\sqrt{a^2} = a$ ,  $\sqrt{b^2} = b$ .  $a < b$  ならば,  $\sqrt{a^2} < \sqrt{b^2}$ , 定理 5.1.7 により  $\sqrt{a} < \sqrt{b}$ . 逆に,  $\sqrt{a} < \sqrt{b}$  ならば, 定理 5.1.6 により  $\sqrt{a^2} < \sqrt{b^2}$  つまり  $a < b$ . (証明終了)

(定理 1.6.2)  $a \geq 0$  である任意の実数  $a$  に対して  $\sqrt{a} \geq 0$ .

(定理 1.6.3)  $a \geq 0$  である任意の実数  $a$  について,  $\sqrt{a^2} = a$ .

(定理 5.1.7) 任意の実数  $a, b$  について,  $a^2 < b^2$  かつ  $b \geq 0$  ならば,  $a < b$ .

(定理 5.1.6) 任意の実数  $a, b$  について,  $0 \leq a < b$  ならば,  $a^2 < b^2$ .



(定理 1.6.3)  $a \leq 0$  である任意の実数  $a$  について  $\sqrt{a^2} = -a$  .

例  $(\sqrt{7} - 3)^2$  を計算する. その結果を用いて  $\sqrt{16 - 6\sqrt{7}}$  を計算する.

(定理 1.6.3)  $a \leq 0$  である任意の実数  $a$  について  $\sqrt{a^2} = -a$  .

例  $(\sqrt{7} - 3)^2$  を計算する. その結果を用いて  $\sqrt{16 - 6\sqrt{7}}$  を計算する.

$$(\sqrt{7} - 3)^2 = \sqrt{7}^2 - 2 \cdot 3\sqrt{7} + 3^2 = 7 - 6\sqrt{7} + 9 = 16 - 6\sqrt{7} .$$

(定理 1.6.3)  $a \leq 0$  である任意の実数  $a$  について  $\sqrt{a^2} = -a$  .

例  $(\sqrt{7} - 3)^2$  を計算する. その結果を用いて  $\sqrt{16 - 6\sqrt{7}}$  を計算する.

$$(\sqrt{7} - 3)^2 = \sqrt{7}^2 - 2 \cdot 3\sqrt{7} + 3^2 = 7 - 6\sqrt{7} + 9 = 16 - 6\sqrt{7} .$$

$7 < 3^2$  なので  $\sqrt{7} < \sqrt{3^2} = 3$  , よって  $\sqrt{7} - 3 < 0$  なので,

(定理 1.6.3)  $a \leq 0$  である任意の実数  $a$  について  $\sqrt{a^2} = -a$  .

例  $(\sqrt{7} - 3)^2$  を計算する. その結果を用いて  $\sqrt{16 - 6\sqrt{7}}$  を計算する.

$$(\sqrt{7} - 3)^2 = \sqrt{7}^2 - 2 \cdot 3\sqrt{7} + 3^2 = 7 - 6\sqrt{7} + 9 = 16 - 6\sqrt{7} .$$

$7 < 3^2$  なので  $\sqrt{7} < \sqrt{3^2} = 3$  , よって  $\sqrt{7} - 3 < 0$  なので,

$$\sqrt{16 - 6\sqrt{7}} = \sqrt{(\sqrt{7} - 3)^2} = -(\sqrt{7} - 3) = 3 - \sqrt{7} .$$

終

**問5.3.3**  $(2 - \sqrt{5})^2$  を計算し, その結果を用いて  $\sqrt{9 - 4\sqrt{5}}$  を計算せよ.

**問5.3.3**  $(2 - \sqrt{5})^2$  を計算し, その結果を用いて  $\sqrt{9 - 4\sqrt{5}}$  を計算せよ.

$$(2 - \sqrt{5})^2 = 4 - 4\sqrt{5} + 5 = 9 - 4\sqrt{5} .$$

$2 < \sqrt{5}$  なので  $2 - \sqrt{5} < 0$ , よって

$$\sqrt{9 - 4\sqrt{5}} = \sqrt{(2 - \sqrt{5})^2} = -(2 - \sqrt{5}) = \sqrt{5} - 2 .$$

**終**

実数  $a$  について, 例えば  $a = 5$  のとき,  $|a| = |5| = 5$  なので  $|a| = a$  ;  
また例えば  $a = -3$  のとき,  $|a| = |-3| = 3$  なので  $|a| > a$  .

実数  $a$  について, 例えば  $a = 5$  のとき,  $|a| = |5| = 5$  なので  $|a| = a$  ;  
また例えば  $a = -3$  のとき,  $|a| = |-3| = 3$  なので  $|a| > a$  . このように,  
 $|a| = a$  となる場合と  $|a| > a$  となる場合とがある ; 両方の場合を併せると  
 $|a| \geq a$  .



実数  $a$  について、例えば  $a = 5$  のとき、 $|a| = |5| = 5$  なので  $|a| = a$  ;  
また例えば  $a = -3$  のとき、 $|a| = |-3| = 3$  なので  $|a| > a$  . このように、  
 $|a| = a$  となる場合と  $|a| > a$  となる場合とがある ; 両方の場合を併せると  
 $|a| \geq a$  .

**定理 5.3.2** 任意の実数  $a$  について  $a \leq |a|$  .

証明 定理 1.7.5 により  $|a|^2 = a^2$  なので、定理 1.5.1 により  $|a|^2 \geq a^2$  . 定理  
1.7.1 により  $|a| \geq 0$  . 定理 5.1.7 により  $|a| \geq a$  . (証明終了)

(定理 1.7.5) 任意の実数  $a$  について  $|a|^2 = a^2$  .

(定理 1.7.1) 任意の実数  $a$  について  $|a| \geq 0$  .

(定理 1.5.1) 任意の実数  $a, b$  について、 $a = b$  ならば  $a \geq b$  .

(定理 5.1.7) 任意の実数  $a, b$  について、 $a^2 \geq b^2$  かつ  $a \geq 0$  ならば、 $a \geq b$  .

実数  $a$  と  $b$  について,

例えば  $a = 5$  ,  $b = 3$  のとき  $|a + b| = 8 = |a| + |b|$  ,

例えば  $a = 5$  ,  $b = -3$  のとき  $|a + b| = 2 < |a| + |b|$  ,

例えば  $a = -5$  ,  $b = 3$  のとき  $|a + b| = 2 < |a| + |b|$  ,

例えば  $a = -5$  ,  $b = -3$  のとき  $|a + b| = 8 = |a| + |b|$  .

実数  $a$  と  $b$  について,

例えば  $a = 5$  ,  $b = 3$  のとき  $|a + b| = 8 = |a| + |b|$  ,

例えば  $a = 5$  ,  $b = -3$  のとき  $|a + b| = 2 < |a| + |b|$  ,

例えば  $a = -5$  ,  $b = 3$  のとき  $|a + b| = 2 < |a| + |b|$  ,

例えば  $a = -5$  ,  $b = -3$  のとき  $|a + b| = 8 = |a| + |b|$  .

このように,  $|a + b| = |a| + |b|$  または  $|a + b| < |a| + |b|$  なので,

$$|a + b| \leq |a| + |b| .$$

実数  $a$  と  $b$  について,

例えば  $a = 5$  ,  $b = 3$  のとき  $|a + b| = 8 = |a| + |b|$  ,

例えば  $a = 5$  ,  $b = -3$  のとき  $|a + b| = 2 < |a| + |b|$  ,

例えば  $a = -5$  ,  $b = 3$  のとき  $|a + b| = 2 < |a| + |b|$  ,

例えば  $a = -5$  ,  $b = -3$  のとき  $|a + b| = 8 = |a| + |b|$  .

このように,  $|a + b| = |a| + |b|$  または  $|a + b| < |a| + |b|$  なので,

$$|a + b| \leq |a| + |b| .$$

**定理 5.3.3 (三角不等式)** 任意の実数  $a$  と  $b$  について  $|a + b| \leq |a| + |b|$  .

実数  $a$  と  $b$  について, 三角不等式  $|a + b| \leq |a| + |b|$  を導く.

実数  $a$  と  $b$  について, 三角不等式  $|a + b| \leq |a| + |b|$  を導く.

$$\begin{aligned} (|a| + |b|)^2 - |a + b|^2 &= |a|^2 + 2|a||b| + |b|^2 - (a + b)^2 \\ &= a^2 + 2|ab| + b^2 - (a^2 + 2ab + b^2) = 2|ab| - 2ab \\ &= 2(|ab| - ab) . \end{aligned}$$

(定理 1.7.5) 任意の実数  $a$  について  $|a|^2 = a^2$  .

実数  $a$  と  $b$  について、三角不等式  $|a + b| \leq |a| + |b|$  を導く.

$$\begin{aligned} (|a| + |b|)^2 - |a + b|^2 &= |a|^2 + 2|a||b| + |b|^2 - (a + b)^2 \\ &= a^2 + 2|ab| + b^2 - (a^2 + 2ab + b^2) = 2|ab| - 2ab \\ &= 2(|ab| - ab) . \end{aligned}$$

定理 5.3.2 により  $|ab| \geq ab$  なので  $|ab| - ab \geq 0$  , よって  $2(|ab| - ab) \geq 0$  なので,

$$(|a| + |b|)^2 - |a + b|^2 \geq 0 ,$$

(定理 5.3.2) 任意の実数  $a$  について  $|a| \geq a$  .

実数  $a$  と  $b$  について，三角不等式  $|a+b| \leq |a|+|b|$  を導く．

$$\begin{aligned} (|a|+|b|)^2 - |a+b|^2 &= |a|^2 + 2|a||b| + |b|^2 - (a+b)^2 \\ &= a^2 + 2|ab| + b^2 - (a^2 + 2ab + b^2) = 2|ab| - 2ab \\ &= 2(|ab| - ab) . \end{aligned}$$

定理 5.3.2 により  $|ab| \geq ab$  なので  $|ab| - ab \geq 0$  ， よって  $2(|ab| - ab) \geq 0$  なので，

$$\begin{aligned} (|a|+|b|)^2 - |a+b|^2 &\geq 0 , \\ (|a|+|b|)^2 &\geq |a+b|^2 . \end{aligned}$$

定理 1.7.1 により  $|a| \geq 0$  ，  $|b| \geq 0$  なので，定理 1.5.2 により  $|a|+|b| \geq 0$  ．

(定理 1.7.1) 任意の実数  $a$  について  $|a| \geq 0$  ．

(定理 5.1.2) 任意の実数  $a, b, c, d$  について， $a \geq b$  かつ  $c \geq d$  ならば，  
 $a+c \geq b+d$  ．



実数  $a$  と  $b$  について、三角不等式  $|a+b| \leq |a|+|b|$  を導く.

$$\begin{aligned} (|a|+|b|)^2 - |a+b|^2 &= |a|^2 + 2|a||b| + |b|^2 - (a+b)^2 \\ &= a^2 + 2|ab| + b^2 - (a^2 + 2ab + b^2) = 2|ab| - 2ab \\ &= 2(|ab| - ab) . \end{aligned}$$

定理 5.3.2 により  $|ab| \geq ab$  なので  $|ab| - ab \geq 0$  , よって  $2(|ab| - ab) \geq 0$  なので,

$$\begin{aligned} (|a|+|b|)^2 - |a+b|^2 &\geq 0 , \\ (|a|+|b|)^2 &\geq |a+b|^2 . \end{aligned}$$

定理 1.7.1 により  $|a| \geq 0$  ,  $|b| \geq 0$  なので, 定理 1.5.2 により  $|a|+|b| \geq 0$  .

$(|a|+|b|)^2 \geq |a+b|^2$  かつ  $|a|+|b| \geq 0$  なので, 定理 5.1.7 により

$$|a|+|b| \geq |a+b| .$$

(証明終了)

(定理 5.1.7) 任意の実数  $a, b$  について,  $a^2 \geq b^2$  かつ  $a \geq 0$  ならば,  $a \geq b$  .

**問5.3.4** 三角不等式の証明に倣って次のことを証明せよ：任意の実数  $a$  と  $b$

とについて  $|a - b| \geq |a| - |b|$  .

$$\begin{aligned} |a - b|^2 - (|a| - |b|)^2 &= (a - b)^2 - (|a|^2 - 2|a||b| + |b|^2) \\ &= a^2 + 2ab + b^2 - (a^2 - 2|ab| + b^2) = -2ab + 2|ab| \\ &= 2(|ab| - ab) . \end{aligned}$$

$|ab| \geq ab$  なので  $|ab| - ab \geq 0$  , よって  $2(|ab| - ab) \geq 0$  なので,

$$\begin{aligned} |a - b|^2 - (|a| - |b|)^2 &\geq 0 , \\ |a - b|^2 &\geq (|a| - |b|)^2 . \end{aligned}$$

$|a - b| \geq 0$  なので  $|a - b| \geq |a| - |b|$  .

終

例えば、実数  $x$  について、 $|x| < 3$  となることは、 $x$  の値が  $-3$  より大きく  $3$  より小さいことつまり  $-3 < x < 3$  となることである：

$$|x| < 3 \iff -3 < x < 3 .$$

例えば、実数  $x$  について、 $|x| < 3$  となることは、 $x$  の値が  $-3$  より大きく  $3$  より小さいことつまり  $-3 < x < 3$  となることである：

$$|x| < 3 \iff -3 < x < 3 .$$

また例えば、実数  $x$  について、 $|x| > 3$  となることは、 $x$  の値が  $-3$  より小さいかまたは  $3$  より大きいことである：

$$|x| > 3 \iff x < -3 \text{ または } x > 3 .$$

例えば、実数  $x$  について、 $|x| < 3$  となることは、 $x$  の値が  $-3$  より大きく  $3$  より小さいことつまり  $-3 < x < 3$  となることである：

$$|x| < 3 \iff -3 < x < 3 .$$

また例えば、実数  $x$  について、 $|x| > 3$  となることは、 $x$  の値が  $-3$  より小さいかまたは  $3$  より大きいことである：

$$|x| > 3 \iff x < -3 \text{ または } x > 3 .$$

一般的に次の定理が成り立つ。

**定理 5.3.4** 任意の実数  $a$  と  $b$  について、

$$|a| < b \iff -b < a < b ,$$

$$|a| \leq b \iff -b \leq a \leq b ,$$

$$|a| > b \iff a > b \text{ または } a < -b ,$$

$$|a| \geq b \iff a \geq b \text{ または } a \leq -b .$$

次のことを証明する：任意の実数  $a, b$  について，  $|a| < b$  ならば  $-b < a < b$  .

実数  $a, b$  について  $|a| < b$  と仮定する. 定理 5.3.2 により  $a \leq |a|$  , 仮定  $|a| < b$  より, 定理 5.1.1 により  $a < b$  . また, 定理 5.3.2 と定理 1.7.6 とにより  $-a \leq |-a| = |a|$  , 仮定  $|a| < b$  より, 定理 5.1.1 により  $-a < b$  ; よって定理 1.5.5 により  $a > -b$  .  $a < b$  かつ  $-b < a$  なので,  $-b < a < b$  .

(定理 5.3.2) 任意の実数  $a$  について  $a \leq |a|$  .

(定理 5.1.1) 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a \leq b$  かつ  $b < c$  ならば,  $a < c$  .

(定理 1.7.6) 任意の実数  $a$  について  $|-a| = |a|$  .

(定理 1.5.5) 任意の実数  $a, b$  について,  $a < b$  ならば  $-a > -b$  .

次のことを証明する：任意の実数  $a, b$  について，  $-b < a < b$  ならば

$$|a| < b .$$

実数  $a, b$  について  $-b < a < b$  と仮定する．定理 1.5.2 により，  $a \geq 0$  または  $a < 0$  .  $a \geq 0$  のとき，定理 1.7.2 により  $a = |a|$  ，仮定より  $a < b$  なので  $|a| < b$  .  $a < 0$  のとき，定理 1.7.2 により  $|a| = -a$  ，仮定より  $a > -b$  なので定理 1.5.5 により  $-a < b$  ，よって  $|a| < b$  . つまりどちらのときも  $|a| < b$  .

(定理 1.5.2) 任意の実数  $a, b$  について，  $a \geq b$  または  $a < b$  .

(定理 1.7.2) 任意の実数  $a$  について，  $a \geq 0$  のとき  $|a| = a$  ，  $a < 0$  のとき  $|a| = -a$  .

(定理 1.5.5) 任意の実数  $a, b$  について，  $a < b$  ならば  $-a > -b$  .

次のことを証明する：任意の実数  $a, b$  について，  $|a| > b$  ならば，  $a < -b$  または  $a > b$  .

実数  $a, b$  について  $|a| > b$  と仮定する．定理 1.5.2 により，  $a \geq 0$  または  $a < 0$  .  $a \geq 0$  のとき，定理 1.7.2 により  $a = |a|$  なので，仮定  $|a| > b$  より  $a > b$  .  $a < 0$  のとき，定理 1.7.2 により  $-a = |a|$  なので，仮定  $|a| > b$  より  $-a > b$  よって定理 1.5.5 により  $a < -b$  . よって  $a > b$  または  $a < -b$  .

(定理 1.5.2) 任意の実数  $a, b$  について，  $a \geq b$  または  $a < b$  .

(定理 1.7.2) 任意の実数  $a$  について，  $a \geq 0$  のとき  $|a| = a$  ,  $a < 0$  のとき  $|a| = -a$  .

(定理 1.5.5) 任意の実数  $a, b$  について，  $a > b$  ならば  $-a < -b$  .



次のことを証明する：任意の実数  $a, b$  について，  $a < -b$  または  $a > b$  ならば，  $|a| > b$  .

実数  $a, b$  について  $a > b$  または  $a < -b$  と仮定する.  $a > b$  のとき，定理 5.3.2 により  $|a| \geq a$  なので，定理 5.1.1 により  $|a| > b$  .  $a < -b$  のとき，定理 1.5.5 により  $-a > b$  , 定理 1.7.6 と定理 5.3.2 とにより  $|a| = |-a| \geq -a$  なので，定理 5.1.1 により  $|a| > b$  . よって，  $a > b$  のときも  $a < -b$  のときも，  $|a| > b$  .

(定理 5.3.2) 任意の実数  $a$  について  $|a| \geq a$  .

(定理 5.1.1) 任意の実数  $a, b$  について，  $a \geq b$  かつ  $b > c$  ならば，  $a > c$  .

(定理 1.7.6) 任意の実数  $a$  について  $|a| = |-a|$  .

(定理 1.5.5) 任意の実数  $a, b$  について，  $a > b$  ならば  $-a < -b$  .

0 以上の実数  $a$  と  $b$  に対して,  $\frac{a+b}{2}$  を  $a$  と  $b$  との相加平均といい,  
 $\sqrt{ab}$  を  $a$  と  $b$  との相乗平均という.

0 以上の実数  $a$  と  $b$  に対して,  $\frac{a+b}{2}$  を  $a$  と  $b$  との相加平均といい,  $\sqrt{ab}$  を  $a$  と  $b$  との相乗平均という.

相加平均と相乗平均の大小関係について次の定理が成り立つ.

**定理 5.3.6**  $a \geq 0$  かつ  $b \geq 0$  である任意の実数  $a$  と  $b$  について  $\frac{a+b}{2} \geq \sqrt{ab}$  ; 等号が成り立つのは  $a = b$  のときに限る.

実数  $a, b$  について  $a \geq 0$  ,  $b \geq 0$  とする. 不等式  $\frac{a+b}{2} \geq \sqrt{ab}$  を導く.

定理 1.5.8 により  $ab \geq 0$  , よって定理 1.6.3 により  $\sqrt{ab^2} = ab$  なので,

$$\begin{aligned} \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 - \sqrt{ab^2} &= \frac{a^2 + 2ab + b^2}{4} - ab = \frac{a^2 + 2ab + b^2 - 4ab}{4} = \frac{a^2 - 2ab + b^2}{4} \\ &= \frac{1}{4}(a-b)^2 . \end{aligned}$$

(定理 1.5.8) 任意の実数  $a, b$  について,  $a \geq 0$  かつ  $b \geq 0$  ならば,  $ab \geq 0$  .

(定理 1.6.3)  $a > 0$  である任意の実数  $a$  について  $\sqrt{a^2} = a$  .

実数  $a, b$  について  $a \geq 0$  ,  $b \geq 0$  とする. 不等式  $\frac{a+b}{2} \geq \sqrt{ab}$  を導く.

定理 1.5.8 により  $ab \geq 0$  , よって定理 1.6.3 により  $\sqrt{ab^2} = ab$  なので,

$$\begin{aligned} \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 - \sqrt{ab^2} &= \frac{a^2 + 2ab + b^2}{4} - ab = \frac{a^2 + 2ab + b^2 - 4ab}{4} = \frac{a^2 - 2ab + b^2}{4} \\ &= \frac{1}{4}(a-b)^2 . \end{aligned}$$

定理 1.5.10 により  $(a-b)^2 \geq 0$  , 定理 1.5.7 により  $\frac{1}{4}(a-b)^2 \geq 0$  ,

$$\left(\frac{a+b}{2}\right)^2 - \sqrt{ab^2} \geq 0 , \quad \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 \geq \sqrt{ab^2} .$$

(定理 1.5.10) 任意の実数  $a$  について  $a^2 \geq 0$  .

(定理 1.5.7) 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a \geq b$  かつ  $c \geq 0$  ならば,  $ac \geq bc$  .

実数  $a, b$  について  $a \geq 0, b \geq 0$  とする. 不等式  $\frac{a+b}{2} \geq \sqrt{ab}$  を導く.

定理 1.5.8 により  $ab \geq 0$ , よって定理 1.6.3 により  $\sqrt{ab^2} = ab$  なので,

$$\begin{aligned} \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 - \sqrt{ab^2} &= \frac{a^2 + 2ab + b^2}{4} - ab = \frac{a^2 + 2ab + b^2 - 4ab}{4} = \frac{a^2 - 2ab + b^2}{4} \\ &= \frac{1}{4}(a-b)^2. \end{aligned}$$

定理 1.5.10 により  $(a-b)^2 \geq 0$ , 定理 1.5.7 により  $\frac{1}{4}(a-b)^2 \geq 0$ ,

$$\left(\frac{a+b}{2}\right)^2 - \sqrt{ab^2} \geq 0, \quad \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 \geq \sqrt{ab^2}. \quad \text{定理 5.1.2 と定理 1.5.7 とにより}$$
$$\frac{a+b}{2} \geq 0.$$

(定理 5.1.2) 任意の実数  $a, b, c, d$  について,  $a \geq b$  かつ  $c \geq d$  ならば,  
 $a+c \geq b+d$ .

(定理 1.5.7) 任意の実数  $a, b, c$  について,  $a \geq b$  かつ  $c \geq 0$  ならば,  $ac \geq bc$ .

実数  $a, b$  について  $a \geq 0, b \geq 0$  とする. 不等式  $\frac{a+b}{2} \geq \sqrt{ab}$  を導く.

定理 1.5.8 により  $ab \geq 0$ , よって定理 1.6.3 により  $\sqrt{ab^2} = ab$  なので,

$$\begin{aligned} \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 - \sqrt{ab^2} &= \frac{a^2 + 2ab + b^2}{4} - ab = \frac{a^2 + 2ab + b^2 - 4ab}{4} = \frac{a^2 - 2ab + b^2}{4} \\ &= \frac{1}{4}(a-b)^2. \end{aligned}$$

定理 1.5.10 により  $(a-b)^2 \geq 0$ , 定理 1.5.7 により  $\frac{1}{4}(a-b)^2 \geq 0$ ,

$\left(\frac{a+b}{2}\right)^2 - \sqrt{ab^2} \geq 0$ ,  $\left(\frac{a+b}{2}\right)^2 \geq \sqrt{ab^2}$ . 定理 5.1.2 と定理 1.5.7 とにより  $\frac{a+b}{2} \geq 0$ . 定理 5.1.7 により  $\frac{a+b}{2} \geq \sqrt{ab}$ .

(定理 5.1.7) 任意の実数  $a, b$  について,  $a^2 \geq b^2$  かつ  $a > 0$  ならば,  $a \geq b$ .

$$\left(\frac{a+b}{2}\right)^2 - \sqrt{ab}^2 = \frac{1}{4}(a-b)^2 \text{ より, } \frac{a+b}{2} = \sqrt{ab} \text{ のとき, } \frac{1}{4}(a-b)^2 = 0 ,$$

よって  $a = b$  . 逆に  $a = b$  のとき,  $\frac{a+b}{2} = \frac{a+a}{2} = a$  ,  $a \geq 0$  なの

で  $\sqrt{ab} = \sqrt{a^2} = a$  , よって  $\frac{a+b}{2} = \sqrt{ab}$  . 故に,  $a = b$  のときに限り

$$\frac{a+b}{2} = \sqrt{ab} .$$



**例** 任意の正の実数  $x$  について  $\frac{x}{5} + \frac{45}{x} \geq 6$  となることを示し、等号が成り立つ条件を調べる. 相加平均と相乗平均との大小関係を用いる.

**例** 任意の正の実数  $x$  について  $\frac{x}{5} + \frac{45}{x} \geq 6$  となることを示し、等号が成り立つ条件を調べる。相加平均と相乗平均との大小関係を用いる。 $x > 0$  なので、 $\frac{x}{5} \geq 0$  かつ  $\frac{45}{x} \geq 0$ 。相加平均と相乗平均との大小関係より

$$\frac{\frac{x}{5} + \frac{45}{x}}{2} \geq \sqrt{\frac{x}{5} \cdot \frac{45}{x}} = \sqrt{9} = 3 .$$

例 任意の正の実数  $x$  について  $\frac{x}{5} + \frac{45}{x} \geq 6$  となることを示し、等号が成り立つ条件を調べる。相加平均と相乗平均との大小関係を用いる。 $x > 0$  なので、 $\frac{x}{5} \geq 0$  かつ  $\frac{45}{x} \geq 0$ 。相加平均と相乗平均との大小関係より

$$\frac{\frac{x}{5} + \frac{45}{x}}{2} \geq \sqrt{\frac{x}{5} \cdot \frac{45}{x}} = \sqrt{9} = 3 .$$

よって  $\frac{x}{5} + \frac{45}{x} \geq 6$  .

**例** 任意の正の実数  $x$  について  $\frac{x}{5} + \frac{45}{x} \geq 6$  となることを示し、等号が成り立つ条件を調べる。相加平均と相乗平均との大小関係を用いる。 $x > 0$  なので、 $\frac{x}{5} \geq 0$  かつ  $\frac{45}{x} \geq 0$ 。相加平均と相乗平均との大小関係より

$$\frac{\frac{x}{5} + \frac{45}{x}}{2} \geq \sqrt{\frac{x}{5} \cdot \frac{45}{x}} = \sqrt{9} = 3 .$$

よって  $\frac{x}{5} + \frac{45}{x} \geq 6$ 。等号が成り立つ条件は、 $\frac{x}{5} = \frac{45}{x}$ 、つまり  $x = \sqrt{5 \cdot 45} = \sqrt{5^2 \cdot 3^2} = 15$ 。

終

**問5.3.5** 任意の正の実数  $x$  について  $\frac{x}{45} + \frac{20}{x} \geq \frac{4}{3}$  となることを示し、等号が成り立つ条件を調べよ.

$x > 0$  なので、 $\frac{x}{45} \geq 0$  かつ  $\frac{20}{x} \geq 0$ . 相加平均と相乗平均との大小関係より

$$\frac{\frac{x}{45} + \frac{20}{x}}{2} \geq$$

よって  $\frac{x}{45} + \frac{20}{x} \geq$  . 等号が成り立つ条件は、 $=$  , つまり  
 $x =$  .

**問5.3.5** 任意の正の実数  $x$  について  $\frac{x}{45} + \frac{20}{x} \geq \frac{4}{3}$  となることを示し、等号が成り立つ条件を調べよ。

$x > 0$  なので、 $\frac{x}{45} \geq 0$  かつ  $\frac{20}{x} \geq 0$  . 相加平均と相乗平均との大小関係より

$$\frac{\frac{x}{45} + \frac{20}{x}}{2} \geq \sqrt{\frac{x}{45} \cdot \frac{20}{x}} = \sqrt{\frac{4}{9}} = \frac{2}{3} .$$

よって  $\frac{x}{45} + \frac{20}{x} \geq \frac{4}{3}$  . 等号が成り立つ条件は、 $\frac{x}{45} = \frac{20}{x}$  , つまり  $x = \sqrt{45 \cdot 20} = 30$  .

終